

# 心の健康

生活の質も考えましよう

餌と水を与え、住環境を整えれば全てのペットが健康に過ごせるわけではありません。ペットの精神面での健康も考慮しなくてはなりません。

## 仲間

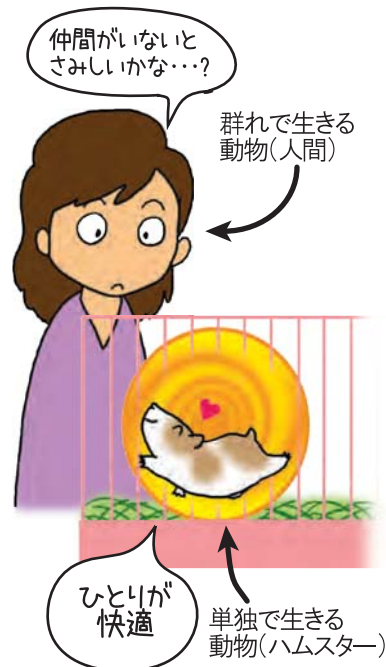
群れで生きる種類のペットは人を含めた「仲間」が必要ですし、単独で生きる種類のペットは一匹で過ごせる時間や環境が必要です。群れで生きる種類でも、過密な状態はストレスになります。異なる種類のペットを一緒に飼うときには、他の種類の鳴き声やにおいがストレスになることもありますから、特に注意が必要です。

## おもちゃ

ほとんどの動物は、野生の状態では餌を探すことに一日を費やしますが、食住が与えられているペットには、おもちゃを与えたり、飼い主と遊ぶなど、代わりに時間をつぶせる工夫が必要です。犬のように社会的な動物は、外へ散歩に連れ出したり、適切なしつけやエクササイズをするなどのコミュニケーションが心の健康のために必要不可欠です。

## 問題行動

心の健康を損なうと、常同行動（意味のない同じ行動を繰り返すこと）や自傷行為（自分の毛や羽毛をむしったり、体の同じ場所をなめ続けて傷を作ってしまうなど）、吠え続けたり破壊行動などの問題行動として現れることがあります。これらは飼い主にとっても困った問題ですが、一番苦しむのはペット自身です。



大地震、巨大台風、火山噴火、洪水など天災に見舞われた時、ペットの命を守るのは飼い主です。

## 備え

災害で騒然とした雰囲気の中では、ペットは興奮して思いがけない行動をとるかもしれません。いつもはおとなしいペットが我を忘れて人に危害を及ぼしたり、逃げ出して戻ってこないなどの事態も考えられますから、被災しにくいように飼う場所を工夫したり、逃げ出したりしないように施設を補強しておきましょう。大型動物、猛禽類など、危険な動物を飼っている場合は、特に注意しなくてはなりません。万一の迷子に備え、ペットにはマイクロチップなどの身元を示すものを必ずつけましよう。

## 避難

自宅から避難しなくてはならない事態になることもあります。犬や猫などの小動物は飼い主と一緒に避難する「同行避難」の自治体もありますから、避難場所はどこなのか、ペットを連れて行くことはできるのかなど、住んでいる地域の防災計画を確かめておきましょう。避難所ではたくさんの被災者が生活することが予想されます。中にはペットが嫌いな人やアレルギーをもつ人もいますので、普段からペットは清潔にし、必要なしつけをするなど、他人に迷惑をかけない配慮がペットの安全につながります。



ふだんからクレートを寝床にしておけば...



いざという時もストレスを減らせる

# 突然の災害

普段からの備えが大切